

新たな施設のグランドデザイン・コンセプト

オープンプラットフォーム構想^{※1}

別府の魅力、それは温泉、商店、街家、街並みや路地、様々な人を受け入れる街の風土・・・ヒューマンスケールにまちを歩き、人と出会い、回遊する楽しさである。その街の魅力を、今回の図書館・美術館構想によって、さらにネットワークを強化し、市民が主体的に利用・運営に関わる、既存の図書館・美術館にはない新たなコンセプトとスキームを提案する。

図書館・美術館のハブを整備すると共に、街なかとの連携、市民参加のスキームを構築していくことで、ハードとソフト両軸での賑わいづくり、公民連携による魅力創造が可能となる。

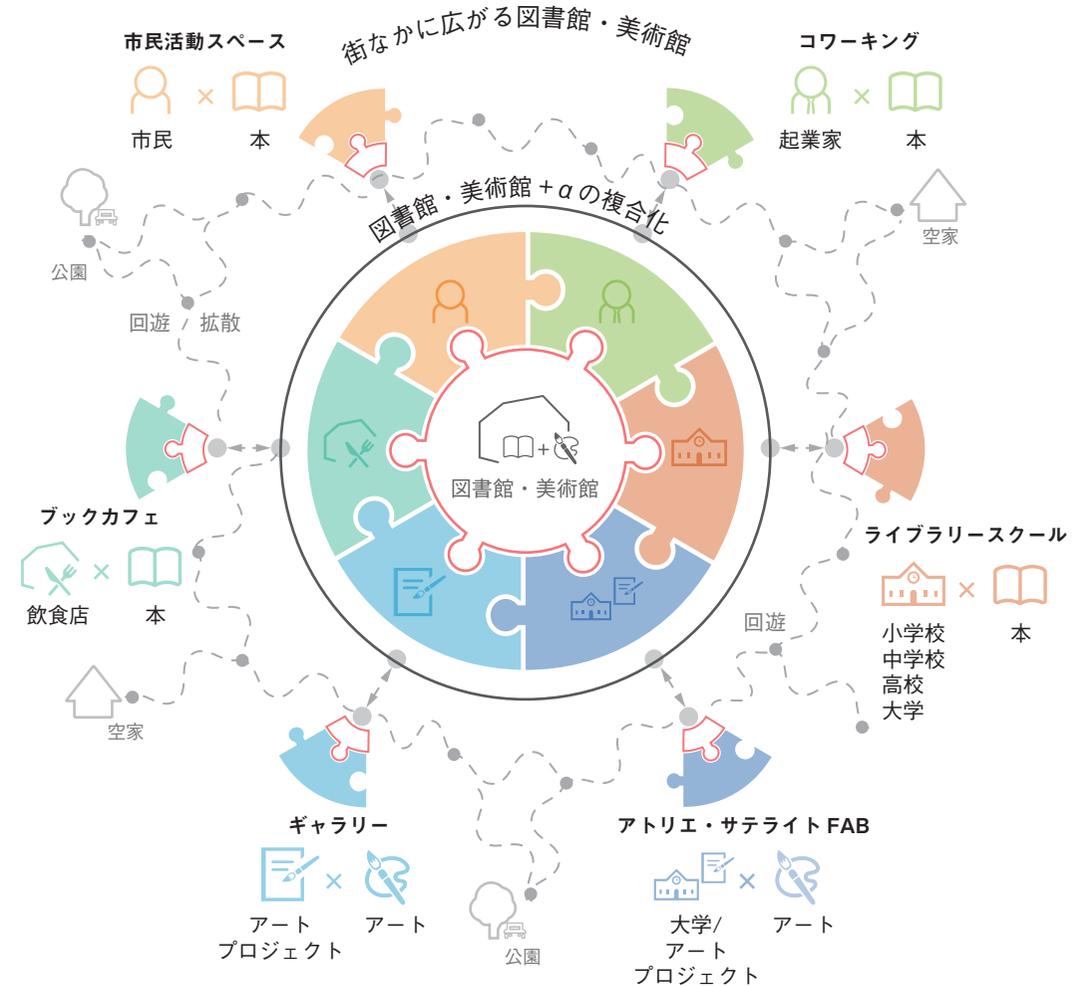
図書館・美術館 + α の複合化

コアとなる図書館・美術館は、民間施設と複合化し、図書館・美術館に来る動機を様々な地元や外部に提供する。

例えば、大学生が街なかで活動できるサテライト FAB、既存教育機関と連携したライブラリースクール、地元と外部のクリエイターや起業家が出会い交わるコワーキング、制作活動を支援するアトリエ、地元の旅館やホテルと連携したサービス、市民も観光客も立ち寄りやすいカフェなど、様々な民間のリソースを図書館・美術館と融合化する。

街なかに広がる図書館・美術館

図書館・美術館の機能の一部を、民間（街なか）に散りばめる。八百屋さんには野菜や料理の本、公園には移動図書館、温泉には旅のガイドや別府史、風土を知ることができる本、保育園には児童書や子育ての本、様々な場所で貸し借りができ、市民も観光客も本を通じたコミュニケーションが生まれる。



※1 オープンプラットフォーム
製品やサービスを自社以外の企業からも参加可能としているプラットフォーム